

長崎県がダム予定地13世帯の住家と土地を奪おうとしています。

石木ダムに、私たちの家・土地を
明け渡すことはできません。
私たちはただ、
生まれ育ったこの川原こうばるに住み続けたいだけなのです。
この大好きな自然を、
私たちの子どもたちに残したいだけなのです。
みなさん、力をお貸し下さい。



川原(こうばる)のうた

語り

皆さん、
よかったら一度足を運んで下さい
僕らの住んでる川原(こうばる)に
自慢できるものは何もありませんが、
川原(こうばる)がどんなところか
よかったら見に来てください

語り

ここにダムができています
もしダムができたなら、
田圃たんぼも畑も僕らの家も
そしてホテルもみんな
みんなダムの底に沈んでしまいます

うた

春は黄色の 帯のよう
石木川に寄り添って
水辺の菜の花 どこまでも

初夏は日暮れて 帰り道
石木川のほとりでは
ふわふわホテルが飛んでいます

ここは こうばる ホテルの里
自然を守る人が住む

うた

秋の棚田は 黄金色
石木川に吹く風が
野辺のコスモス揺らします

冬は風花 舞い落ちる
石木川のふるさとくんとざんは
気高くそびえる 虚空蔵山

ここは こうばる ホテルの里
ふるさと愛する人が住む

語り

僕のかみさんが初めて川原にやってきたとき、
ギョッとした顔をしました
田圃や畑のあちこちに「石木ダム反対！」の
でっかい看板があったからです

僕はそのとき初めて知りました
こんな看板だらけの景色が普通でないってことを
僕は生れてずっとこの風景の中で育ったので
それが異常だってことに気付かなかったのです

僕らはただ、生まれ育ったこの土地に
住み続けたいだけなんです
この大好きな自然を

僕らの子どもたちに残したいだけなんです

ダムの中止が決まったら、僕らは看板を撤去して、
そこに花を植えたのです

うた

ここは こうばる ホテルの里
自然を守る人が住む

ここは こうばる ホテルの里
ふるさと愛する人が住む

石木ダムの情報はこちらをどうぞ

<http://suigenren.jp/damlist/dammap/ishikidam/>

石木ダム建設絶対反対同盟

連絡先：電話 0956-82-3453（岩下和雄）
〒 859-3603 長崎県東彼杵郡川棚町岩屋郷 249-1

石木ダム建設絶対反対同盟を支援する会

連絡先：電話 045-877-4970（遠藤保男） 〒 223-0064 横浜市港北区下田町 6-2-28

ダム予定地の人々を苦しめ始めたのはいつからですか？

ことの始まりは昭和 47 年（1972 年）です。半世紀近くも石木ダムに苦しめられています。13 世帯の住民は、「見猿・聞か猿・言わ猿」のやぐらを建てて、不退転のたたかいを続け、**ダムとその関連工事の着工にストップをかけています。**



団結小屋とかかし



水没予定地に立つ聞か猿

■石木ダムの経緯

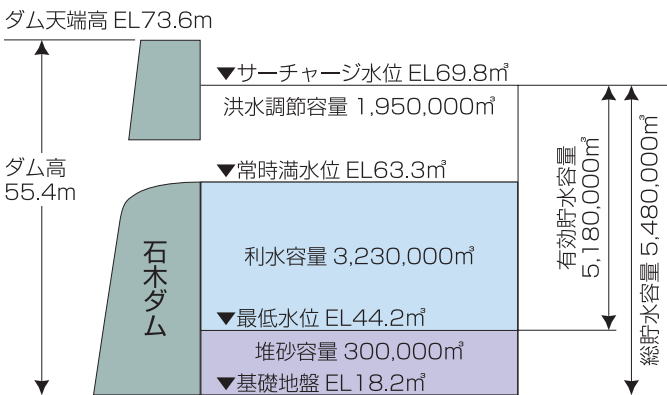
1972年	長崎県、「地元の詳細なしではダムは作らない」と覚え書きを交わし予備調査開始
1982年 5 月	機動隊を伴った立ち入り調査 反対同盟が実力阻止
2009年 11 月	長崎県が強制収用のための事業認定を認定庁（九州地方整備局）へ申請
2012年 6 月 11 日	国土交通省、付帯意見を付けて石木ダム継続の方針決定 長崎県への付帯意見「石木ダムに関しては、事業に関して様々な意見があることに鑑み、地域の方々の理解が得られるよう努力することを希望する」
2013年 9 月 6 日 12 月 5 日	認定庁、付帯意見を無視して不当にも事業認定。 石木ダム対策弁護団発足。以降、石木ダムの必要性について長崎県・佐世保市との自主交渉を重ねる。
2015年 8 月 24 日 11 月 30 日	長崎県、第 1 次収用裁決処分対象地を強制収用 以降、長崎県、収用委員会に対して第 2 次・第 3 次の収用・明渡裁決申請を強行、現在に至る。 長崎県公共事業評価監視委員会、完成予定年度 6 年延期（平成 28 → 34 年度）追認 反対地権者ら、石木ダム事業認定取消訴訟を長崎地方裁判所に提訴
2017年 3 月 6 日	石木ダム工事差止訴訟提訴

石木ダムってどんなダム？

長崎県が国の補助金を受けて造る補助ダムで、利水と治水の多目的ダムです。

ダム諸元	
河川名	2 級河川 川棚川水系石木川
位置	長崎県東彼杵郡川棚町岩屋郷地先
型式	重力式コンクリートダム
総貯水容量	548 万 m ³
有効貯水容量	518 万 m ³
堤高	55.4m
堤頂長	234.0m

■貯水池容量配分図



ダムを造る目的は何ですか？

長崎県のホームページには次のように書かれています。



水道用水供給	佐世保市の新たな水源として、日量 4 万 m ³ の水道用水を供給します。
洪水被害の軽減	下流の洪水被害の軽減を図ります。
流水の正常機能維持	渇水時に川棚川の流量を補給します。



石木ダムは、必要性のないダムです！

県が掲げる目的は、いずれも石木ダム建設の理由を無理矢理つくり出すために考えられたものです。
石木ダムは川棚川の治水対策として不要なものですし、佐世保市の水道は石木ダムがなくても、何も困ることはありません。

■ 佐世保市の水道にとって石木ダムとは？

① 佐世保市水道の需要は減り続け、水源に余裕があります

佐世保市水道の水需要は人口減と節水型機器の普及などで 1999 年度から減り続け、2014 年度以降は 8 万 m³/日になり、これからも減っていきます (図 1 参照)。

佐世保市は安定水源が 77,000 m³/日しかないとしています。が、渇水時のデータを見ると、実際の安定水源は 92,000 m³/日以上あります。

すでに保有水源に約 1 万 m³/日以上余裕があり、これらも水需要が減り続けるので、水需給に不足をきたすことはありません。

② 架空の予測を続ける佐世保市

佐世保市は、水需要が減り続けている実績の傾向を無視し、今後は水需要が急増していく架空の予測を行い (図 1 参照)、将来は水

不足に陥るから、石木ダムが必要だという偽りの話を作り上げています。

図 1 ■ 佐世保市水道の 1 日最大取水量実績と 2012 年度市予測 (佐世保地区)



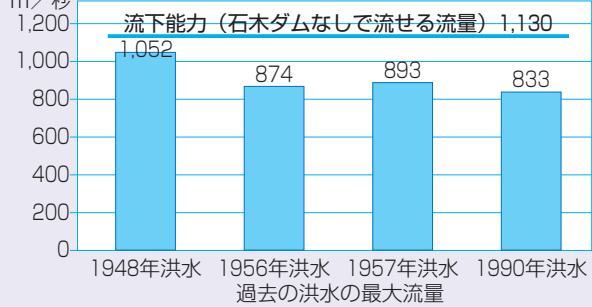
出典：佐世保市水道局の資料
[注] 一日最大取水量の実績は一日最大給水量の実績からの換算値を示す。この換算には 2007 ～ 11 年度の利用量率の実績平均 97.4% を用いた。

■ 川棚川の洪水対策にとって石木ダムは？

① 戦後の最大洪水 (昭和 23 洪水) がきても、石木ダムなしで対応できることは長崎県が認めています。

② 長崎県はもっと大きな洪水、100 年に 1 回の洪水に備えて、石木ダムが必要だとしていますが、これは誤った計算で過大な洪水流量が設定されているからであって、正しく計算すると、石木ダムなしで 100 年に 1 回の洪水にも対応することが可能です。

図 2 ■ 過去の洪水の最大流量と川棚川の流下能力 (川棚川・山道橋)



[注] 長崎県の資料から作成。過去の洪水流量は野々川ダムの効果を考慮。

以上のように石木ダムは全く必要のないダムです。
ダム水没予定地の 13 世帯は、この無用のダムのために、半世紀近くも苦しめられ続けてきているのです。
13 世帯住民への支援の輪をどんどん大きくして石木ダムを中止に追い込みましょう。

石木ダムは

長崎県が川棚川の支流・石木川に建設しようとしているダムです。ダム水没予定地の13世帯が半世紀近くにわたって、石木ダムに対して絶対反対の闘いを続けています。

その場所はどこなのですか？

石木ダム予定地は
ひかしそぎぐんかわたな いわやこう
長崎県東彼杵郡川棚町岩屋郷地先で、
右の川棚川流域図の台形が石木ダム予定地です。



13世帯が住んでいる石木川流域は自然の宝庫です。

石木川にはたくさんの魚たちが棲んでいます。この絵の中では下の方に描いてあるメダカ、ヤマトシマドジョウは絶滅危惧種に指定されている希少な魚です。



ここに描ききれないほどの数多くの種類の鳥を石木川の周りで見かけます。人々を魅了する美しいカワセミも、ダムができれば、観ることができなくなってしまいます。



◆石木ダム予定地はホタルの里◆

石木川では、5月の末頃からゲンジボタルの乱舞があらこちで見られます。ダム水没予定地のこうばる地区では、毎年5月の最終土曜日に「こうばるほたる祭り」を開いています。毎年たくさんのお客さんでにぎわい、祭りのあとは静かにホタルを鑑賞します…。ダムができてしまったら、このホタルの里は永遠に失われてしまいます。石木川はたくさんの魚が棲み、多くの鳥が生息する自然の宝庫です！

皆様も是非、現地を訪れてかけがえのない自然を満喫してください。